

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	令和元年度第3回図書館協議会		
開催日時	令和2年1月17日(金) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎智義委員長、岩崎和子副委員長、両角薫委員、下平香代子委員、轟洋太委員、田村満理委員、矢崎進一委員 山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、辻井図書館長、濱主事		
欠席者	原猛委員、三代沢正委員、伊藤英一郎委員、戸田茂生委員、百瀬るみ委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
生涯学習課長	<p>1 開会</p> <p>2 審議会の公開について ※会議の公開及び非公開事項について説明。 本日の会議については公開とすることを決定する。</p> <p>3 教育長あいさつ 今回は図書館の今後について話し合ってください。みなさんでゆっくりと意見を出していただけたらと思います。茅野市図書館を市民のための図書館ではなく、市民の図書館にしたい。このちがいは大きいと思う。</p> <p>4 議題 (1) 図書館の今後について 前回の協議会で、「これからの図書館について」という議案を出させていただいたが、どのようなことをどうやって話し合っていくのが難しいとのことだった。今回委員長、副委員長にご協力いただいて切り口や、意見の一例を整理した資料を事前に配布させていただいた。そちらを参考に、広く意見をいただけたらと思う。</p> <p>10年・20年先の図書館を考えてみろと言われても、なかなか難しい話だと思う。何について話したらいいのか考えたときに、できるだけみなさんに意見を出していただいて、それを後で事務局の方で整理していただき、切り口・大事な点の話をしていけばいいかと思う。みなさんが今、将来こういったことを考えていくべき、こういう図書館になればいい。ということを出していただきたい。それをまとめたものを切り口として、重み付けをしていきたい。それからどれが大事か天秤にかけていく形で整理していけば、あまり落ちがなくてできると思う。将来見直したときに、もう一度見直しができると思われる。</p>		
教育長			
図書館長			
委員長			

委員

読書旬間に学校で家庭読書（親子読書）に取り組んでもらった。いただいた感想の中で、「本屋に行った際、子どもが読んでみたいとのリクエストがあり、市図書館でシリーズ4冊を借りた。子どもとお互い感想を言い合えるのが楽しかった。」といったものがあった。本屋さんに行った際に、すぐ購入するのではなく、図書館に来てシリーズ本を見つけてそれを借りる。市図書館をこういった利用をしているお家があるのだなと感じた。

「自分がよく読む本をお母さんといっしょに読むことができて楽しかったし、うれしかった。」と言っている子もいた。「家で本を普段は読まないから、読書を楽しめてよかった。」など親子読書をきっかけに本を読む子がいることがわかった。何かのきっかけで大人や子どもも本に没頭することができると感じた。学校でも子どもが読書に親しむきっかけづくりを工夫していくことで、学校図書館や市図書館を利用するということにもつながると思った。

委員

市図書館・分室のあり方などが切実な課題だと感じる。この図書館の利便性としては、駅の近くで交通手段の良い所、子どもやお年寄りが集まりやすい場所にあることがベストだと感じる。

少子高齢化のことを考えると、コミュニティの場として図書館を充実させていけたらいいのかなと思う。分室をコミュニティの場として充実させていけたらどうか。本を借りるだけでなく、これからは図書館がコミュニティの場として考えていかないと存続していかないとと思う。

予算を考えると難しいところがあると思うが、企業などから支援していただくことも考えていった方が持続した図書館になるのではないかなと思う。

もし現在のこの場所だとしたら、今の子どもたちはどんなことに興味があるのか、外国から来る人たちが喜ぶものはなにか考えると、日本の文化であるアニメを使うのはどうか。図書館の前にアニメキャラクターが置いてあるなど、子どもたちはアニメやマンガから学ぶことがあるため時代の流れにはまっていき、そういったことを受け入れていってもいいのかなと思う。

学校図書館、市民館図書室、分室など茅野市では本がいろんなところにある。そういったものをうまく活用できればと思う。公立諏訪東京理科大学の図書館と市図書館が連携することで、専門書を集めることもできると思う。そうすれば市図書館を利用する人も増えると思った。

高校生などが集まる市民館図書室では1ヵ月や2ヵ月と期間を区切って、今季はこういった本がありますよ、こういったことをやっていますよ。ということになれば、中高生は集まると思う。中高生にも意見を聞き、巻き込むことも会議のようなものをやれば自分も参加しているという気持ちになり、足を運ぶようになると思う。市民のためだけでなく、市民の図書館となるとそういったこともあっていいのではないかなと思う。

委員

子どもたちがどう考えているのかは気になる。子どもたちの意見の中には率直な意見や、利用者としての意見がしっかりとあるため、うまくそういった意見を聞く機会を持たせてもらえたらおもしろいと思う。

10年先のことを考えると、新しい高校入試の制度が始まるという新聞記

	<p>事があった。現在の知識編重の入試から、もう少し脱却するような試験方法だった。課題を見つけてそれを解決へ向かうことへの能力を問うような試験なのではないかと思った。学校でも教えるような授業ではなくて、課題を設定して調べて、解決策や答えを見つけるような授業に変えようとしている。学校から出された課題を家に持ち帰り取り組む際、学校図書館を利用することもあるが、市図書館の利便性もほしいと感じる。分室が近くにあればそこで調べることができると思うが、近くにない子がいるとなると、学校としては課題にしづらいところがある。</p>
<p>委員</p>	<p>おしゃれで明るくて、開放的な図書館に行きたい。そう考えると、複合的な施設で食事ができる喫茶コーナーがあり、美術館も入っているような、1日そこにいられるような図書館に行きたいと思う。</p> <p>分室の充実ももちろん大切なことだと思うが、10地区もあるとコストがかかると思う。ネット社会でインターネットが使える年齢の人が増えてくると思うが、車の運転ができない人も増えると考ええると、本の宅配をしたらどうか。最寄りのコミュニティセンターの職員と通じて、本を届けるというシステムがあってもいい。</p>
<p>委員</p>	<p>図書館にいて飽きない、心が休まる、車を楽に置ける駐車スペース、安全性といったものがないと人は集まってこないと思う。</p> <p>保育園の子どもを見ていると、本への親しみは持っているように思う。それを続けていかないと、本離れしていくように思う。親子でいっしょに図書館へ来られるような機会や、いっしょにくつろげる広いスペースがほしい。子どものスペース、親子のスペースなどそれぞれの世代のことを考えた図書館にしていけたらと思う。コーヒーを飲みながら本が読めるような複合的な場所も魅力的。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局側の意見もどうぞ。</p>
<p>主事</p>	<p>図書館で働いて感じることは、本を置いておく場所が少ないように思う。置いておく場所が少ないと購入した分、本を廃棄しなければいけない。それはもったいないことだと思うため、所蔵スペースが多くある図書館は魅力的に感じる。</p>
<p>図書館長</p>	<p>本を読む人を増やしていかないといけないと思う。園児から小学生まではたくさん本を読んでいるように思うが、中学生以上になると忙しさから本を読まなくなり、読書量が減っているように思う。文章を読む習慣を身につけてほしい。</p> <p>高齢者については、現在の立地だと図書館へ来られない方がいると思うため、分室をそのような方向けにできたらと思う。現在分室はこども館という名称がついているため、どうしても子ども向けの本を置くようになっている。その点を高齢者の多い地域には、高齢者向けの本を入れ、子どもとお年寄りが同じ施設内にいられるような場所を作っていければと思う。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>これからは新たな視点を設けて、茅野市としての特徴がある図書館を目</p>

指していかないといけないと思う。立地場所については、やはり駅周辺にあることが良いように思うが、現実問題、複合化など考えるとこれだけの大きい面積のものがどこかいっしょになるような複合施設は今の施設に見当たらないように思う。

立地場所は現在のままと考えると、地理的についで寄りかどうしてもできないところが欠点だと思う。図書館へ行くという目的がないと来られない。自由広場の一角に喫茶コーナーや蔵書をとっておくような場所を作りつなげることで、もう少しちがった図書館にはなると思う。居場所になるような図書館になっていったらいいように思う。

分室については、学校図書館と分室をドッキングできていければと思う。

生涯学習部長

理想を言えば、場所については利便性のいいところがいい。また優秀な司書がいらないといけないと思う。ユニークなリーダーのような人で、人材的なおもしろさを持った人がいてくれると、個性が出てきて、人が寄ってくるように思う。

キレイでおしゃれな空間がないと行きたいとは思わない。非日常的な空間が少しないと寄ってみようとはならない。例えば、こども向けのコーナーは物語の中に入っていきような空間を作る。今月はイソップ物語、来月は桃太郎といったようなものがあると親子で楽しんでくれるように思う。

静粛な場所もないといけない。楽しいだけでなくきちんと閲覧もできる空間がないといけない。意見交換などができるミーティングスペースも必要。

蔵書については専門的なものがあれば、芸術的なもの、多目的なものといった資料の充実している空間の確保もしないといけない。

学生にとっては、1日そこにいられるような場所にならないといけない。となると、食事のできるスペースも必要だろうし、将来的にはそこが楽しいエリアのひとつになれば一番理想だろうと思う。

AIが入ってハイブリッド的な図書館になるだろうから、予約したら宅配のように本を取り寄せて配ってくれるようなサービスも必要になってくると思う。

こういったものがそろえば、きっと多くの人に来てくれるように思う。ただそれは理想であって、それがこの土地に合うかどうかはまた別の問題になってくると思う。

教育長

利便性のことで言うと、公立図書館はすべての人に開かれてないといけない。ここの図書館へは車がなければ来られない。そう考えたときに耐震の関係もある、長期的なものもあるから、今すぐにはいかないが場所についてはこれから考えていくひとつの課題だと思う。

分室と学校図書館の関係については、先程の地域コミュニティの場としてという話を聞いて、これは今から工夫していけばなんとかなるのではないかと感じた。物理的に分室と学校図書館を合体させるまでいなくても、本の行き来などから行うことはできるのではないだろうか。その中で地域のコミュニティの場をこれから考えていきたい。

台湾交流の中で、台湾のある中学の図書館は16時以降になると、保護者

委員長

に開放していた。学校図書館の先生でなく、ボランティアの人が図書館にいる。そうすると、中学生は勉強をする。市民の方は本を借りてくるとなり、一番良い組み合わせではないかと思った。

本の置き場所については、図書館は本を貸す場所と考えるのか。本が集まる場所と考えるのか。本が集まる場所と考えるのなら、もう少し本の置き場所があつていいように思う。

図書館がもっと広ければ、BOOKOFFのような機能があつてもいいと思う。市民の方が読まなくなった本を集めて、志のお金を入れてもらうというものもあつてもいいように思う。

図書館の持つ役割は変わってきているように思う。以前は市民に情報を提供するための図書館であったが、スマホやインターネットで十分調べられるような時代になった。そのような中で図書館は何をするのか、何のためにあるのか。やはり弱者の視点に立って、社会としてもう一度やり直しができるような場所を提供していくことが大事な役割だと思う。なにかあつたときにもう一度やり直せるように、こういった手段があるなどの情報を提供することも図書館の役割だと思う。

書籍の数については、諏訪地方ではだいたい10万～15万冊ある。例えば、この図書館には30万冊、50万冊あるということだけでも力になると思う。ニューヨーク図書館は800万冊もある。どのような本でも置いておくこと、数（蔵書数）は力だと思う。置き場所だけ作ればいい。なにが良い本で悪い本かは、わからないと思う。市民を信じて選んでもらうようにすれば、そんなに苦労しないし、おもしろいと思う。地方の図書館で何百万冊もある図書館はない。

アメリカと日本の教育でちがうのは、ディスカッションをするかどうか。利用者同士がディスカッションでき、作業ができるスペースは大事になってくると思う。今までは情報を提供する場であったが、今の子どもたちは人と話す機会がない。話す機会を提供することは大事になってくるはず。

この図書館に欠けていることは、大人へのサービス。今は働いている人が来られない図書館である。民間に働いている人たちの役に立つような図書館にするには、現場で働いている人たちがどう考えているのかが大事になってくると思う。

最近流行っているが、本を持ち寄ってみんなでディスカッションすることはとても大事だと思う。1人で読んでみてもわからないことはたくさんある。図書館でもそういった場を設けることは役割のひとつだと思う。

副委員長

ゆいわーくではついでの情報が広がっていくようにできている。今の図書館は目的を持った人しか来られない。本に関わっている人、本が好きな人だけのためにあるような図書館になっていると感じる。市民の図書館にするためには、図書館に興味関心がない人たちも関わってくるような企画を入れていく必要がある。現在ボランティアやサポーターを図書館の中で募集はしているが、それだと図書館好きで、図書館に関わっているような人たちにしか声がかかっていない。人材のプールのように、様々な人たちと関われるようにしたい。これからは図書館の中だけで努力をしていくの

ではなく、図書館からの情報を得られなかったような人たちにも届くように、市民館やゆいわーくなどに関わりながら広く声をかけてほしい。新たなサポーター人材・ボランティア人材を発掘するような開かれた方法が必要になると思う。

ゆいわーくに入っただけのところにボードがあり、こういった人材がほしいと伝えることができる場所がある。そこで様々な交流が生まれていると聞く。図書館の既存のボランティア以外のところから人が新鮮な目で図書館を眺められるようにすることが、これから大事になっていくと思う。図書館を楽しむ人材を増やすには、読書だけでなく、様々な講座が必要であり、外に向かって図書館のアピールをしていかななくてはいけないと思う。

現在の職員を見ていると、図書館の運営と本のことで人材的にも手一杯だと思う。企画に長けた人を別のところから連れてきて、力を借りてみるのもいいのではないかなと思う。

分室については、小学校といっしょにという案は昔から出ていた、それがダメになったのは、限られた本が貸出になってしまうと、図書館の授業や教育の場の際に資料がないことになってしまう。授業の際にすぐに対応ができないため問題だとなった。分室はこれから少子高齢化になることを考えると現在のこども館といっしょになっているものではなく、コミュニティとしての交流の場のような場所になれば、そこで開催される講座を通じながら、ついで読書、ついで寄りができるようになると思う。

様々な意味で図書館や分室を楽しむ大人を作っていく。子どもたちは、保育園で読書の種を蒔いてもらい、小学校では4年生までの間に厚い本を読んでいく力をつけていただく。そういったシステムのような読書育てを学校図書館司書の方々にはしてもらいたい。中学校の時は好みが分かれると思うので、今の時代の情報の取り方にアンテナを張り、それを図書館の中にもうまく取り入れていく必要があると思う。

委員

図書館というものを今までの固定概念を持ってはいけないなと感じた。図書館なのか公民館なのか、コミュニティなのか喫茶店なのか、そういったところが全部混ざって時代に合わせたものを作っていくことが大事だと感じた。子どものことを考えると、人と関わる場所であってほしいと思った。

委員

先程本を捨てているという話があった。それは本当か。

図書館長

買った分は処分しないと書庫にも入りきらない。お持ち帰りいただける本については、リサイクルコーナーが常設してあるのでそこに置いているが、廃棄になる本が多い。

委員

ヨーロッパの駅に誰でも弾いていいピアノが置いてあった。捨てるのだったら、駅や病院、コミュニティセンターなどの施設に置いておくのも一つの手だと思う。社協や公立諏訪東京理科大学などともっと連携を取った方がいいと思う。

委員	<p>学校図書館と分室をいっしょにしたらという話を聞いていて、現在学校図書館は司書の先生の勤務時間の都合から16時以降は使えない。16時以降の放課後に一般に図書館を開放することは、お迎え待ちをする場にもなるためいいなと思った。人材的な部分や本を貸出した結果授業で使えなくなるということに関しては、何かしらの対策はあると思う。ただ、できそうだなと思ったことは、空き教室が毎年できてしまっているため、開架図書と閉架図書のように空き教室を利用していてもいいと思った。捨ててしまう本があるのなら、本が増えることは学校図書館としてはありがたいことだと思う。</p>
委員	<p>利用者を増やすためには土日にイベントをすることが大事だと思う。お年寄り向けにカルチャースクールのようなものをやれば、普段図書館を利用しないような方も足を向けてくれるように思う。</p>
委員	<p>コミュニティの場という点に魅力を感じた。コミュニティの場になるようなスペースも必要かと思う。</p> <p>高齢者の方々と交流してみると、来ていただいた方はとてもニコニコしている。子どもと高齢者をどうにかつなげたいと思う。世代間の中での交流をできたらと思う。</p>
主事	<p>お話を聞いていて、ついで寄りができる図書館というものに魅力を感じた。富士見町図書館は複合施設であるため、人の出入りが多かった。それはついで寄りができるからこその光景なのだと思う。ついで寄りができるようになれば新しい利用者も増やすことができるかもしれない。</p>
図書館長	<p>廃棄本を活用できたらと思う。お話を聞いていて、リサイクルコーナーの横に募金箱を置いておくのもいいと思った。それで新しい本も買うことができる。</p> <p>本屋さんといっしょになるというのもいいと思う。現在本は売れなくなっている。出版が先細ってしまうと、図書館の本の部分も先細ってしまう。それは困るので、両方とも共存していけるような形にできたらいいなと思っている。</p> <p>置き場所については、空き教室の話もでたように、空き家などを使ってもいいのかと思った。</p>
生涯学習課長	<p>現在の図書館の人員体制は手一杯なところである。企画力のあるアイデアマンのような人と交流をとることができれば、新しい展開が見えてくると感じた。</p>
生涯学習部長	<p>図書ポストのようなものを置いて、そこに廃棄する本を入れて、自由に持ち帰りしてもらってもいいような無人のポストがあると喜ばれると思った。助け合う人、支え合う人そういった仲間を作ることによって市民の図書館になっていくのではないかと思った。人と関わる人をつないでいくことが一番大事なことだと感じた。</p>

教育長	<p>永明小が140周年のときに、本を買うお金をいただいた。諏訪地方に特化した本を購入しようとなった。子どもの読めるような本はあまりなかったが、大人向けの本も買った。その結果、子どもを通しておじいちゃんおばあちゃんが借りて行ってくれるようになった。もしここで、親御さんや、おじいちゃんおばあちゃんも学校図書館へ出入りできるようになったら、また動くと思う。本の種類によれば、学校図書館の本と大人の本が競合しない関係に作れると思う。競合しそうな本については子ども優先などなにか工夫ができると思う。図書館は本と人だと思う。</p>
委員長	<p>企画が大事ということであれば、民間へ企画の募集という手もあると思う。</p> <p>ニューヨーク図書館の裏側に大きな芝生があるが、そこに本棚のようなものが置いてある。持って帰っていいとは書いてないが、読んだものを返せて、なくなっても管理していないものだった。そのようなものを図書館の庭でも市民館の庭でもできると思う。捨てる本を分室に回すくらいのごとはやってもいいと思う。</p>
図書館長	<p>分室には今も大人向けの本を回しているが、こども館となっているため大人があまり来ない。</p>
委員長	<p>姉妹都市であるロングモント市に行く職員に図書館のことを聞いてきてもらってもいいと思う。</p>
副委員長	<p>廃棄される本と、一般の人たちが読んでいらなくなった本を入れられるポストのようなもので、本の交流ができると思う。空き教室を作り直すにもお金はかかるから、駅の近くなどの古民家に家から持ち寄った本を置くようにして、不思議な迷宮のようなものを作ってもいいと思う。</p> <p>ポストのようなものが茅野市のあちらこちらに点在していたら、読書の街として素晴らしいPRになると思う。市民が読書を楽しみ、本の寿命を長くすることができる。</p>
委員	<p>駅にある商業などの紹介スペースに本が置いてあると、待ち時間も利用できると思う。「なんでこの駅にはこんなに本が置いてあるのだろう。」と考え、読書の街をアピールできる。ガイドブックなどが置いてある宿泊施設にも本を置いてもいいと思う。そうすると観光客にも発信できると思う。</p>
委員長	<p>今後の話し合いはどうしたらいいか。次の会でも話し合ったほうがいいか。</p>
図書館長	<p>出していただいた意見をまとめさせていただき、今後も引き続き検討していけたらと思う。</p>
委員長	<p>今回欠席された方々にも意見を聞いてもらいたい。</p>

図書館長

(2) 図書館の開館時間について

開館時間を変更することになりましたのでご報告します。平成30年度から平日の開館時間を延長して、以前は午前10時から午後6時までであった開館時間を午前9時30分から午後6時30分までとした。午前中については、利用実態・利用アンケートからも好評で効果があったと思われるが、午後6時以降については新たな入館者が1日平均で2名程度に留まっていた。現在の図書館の場所や周囲の環境から考えても、日没以降に利用者を増加させるということは現時点では難しい。実施前の試行期間のときでも閉館時間に関しては延長しても効果がなかったこと、財政の方から費用対効果を考えると、効果がないため、閉館時間については元に戻すようにとの指摘があった。

令和2年4月から、開館時間を午前9時30分から午後6時までとすることになった。

生涯学習課長

少し補足だが、現在財政事情がかなり厳しいということで、様々なところに縮減の波がきている。図書館についても棚卸作業の一貫として最終的には第3次までいった案件となった。理事者を交えた中で、光熱水費・人件費がかかってくることから、今年4月からは閉館時間を午後6時とするよう結論が出た。この場で協議委員のみなさんにご報告を申し上げたところである。

(3) その他

特になし。

委員長

本日の委員会は半分の委員さんが欠席となった。なるべく委員さんが出席できる時間に会議の設定をお願いしたい。

以上をもちまして、令和元年度第3回茅野市図書館協議会を閉会といたします。ありがとうございました。